

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成 28 年 7 月 28 日 (2016.7.28)

【公開番号】特開 2015-14316 (P2015-14316A)

【公開日】平成 27 年 1 月 22 日 (2015.1.22)

【年通号数】公開・登録公報 2015-005

【出願番号】特願 2013-140963 (P2013-140963)

【国際特許分類】

F 1 6 C 29/06 (2006.01)

F 1 6 C 33/76 (2006.01)

【F I】

F 1 6 C 29/06

F 1 6 C 33/76 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 28 年 6 月 10 日 (2016.6.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 3】

また、エンドシール 6 のリップ部 19 は、実施例では、図 14 に示すように、軌道レール 1 の表面（即ち、上面 10 と両側面 9）に対して傾斜しており、外側リップ部 21 の両側面の傾斜角度（ α_1 、 α_2 ）と、内側リップ部 22 の両側面の傾斜角度（ β_1 、 β_2 ）とが互いにそれぞれ同一に形成されている。具体的には、例えば、外側リップ部 21 の内側即ち軌道レール側傾斜面と軌道レール 1 の表面とのなす角度 α_1 及び内側リップ部 22 の内側即ち軌道レール側傾斜面と軌道レール 1 の表面とのなす角度 β_1 は、約 35° に設定されており、また、外側リップ部 21 の外側の傾斜面と軌道レール 1 の表面とのなす角度 α_2 及び内側リップ部 22 の外側の傾斜面と軌道レール 1 の表面とのなす角度 β_2 は、約 45° に設定されている。リップ部 19 の外側リップ部 21 の端面に傾斜角度 α_3 と内側リップ部 22 の端面に傾斜角度 β_3 とは、異なる角度に形成されている。内側リップ部 22 の端面に傾斜面と軌道レール 1 の表面との成す傾斜角度 β_3 は、外側リップ部 21 の端面に傾斜面と軌道レール 1 の表面との成す傾斜角度 α_3 よりも大きな値に設定されており、軌道レール 1 の表面の潤滑剤を掻き取り易く構成されている。また、この直動案内ユニットでは、内側リップ部 22 の先端部即ちエッジ部は、エンドキャップ 4 の外端面 14 よりも外側リップ部 22 側に位置して隙間 49 が形成されており、この実施例では、隙間 49 の距離は、約 0.1 mm に設定されている。従って、内側リップ部 22 は、スライダ 2 が軌道レール 1 上を摺動移動して変形したとしても、エンドシール 6 の内側リップ部 22 の先端がエンドキャップ 4 の外端面 14 に干渉することがない。更に、エンドシール 6 の芯金 8 のリップ形成部 27 は、芯金 8 の厚み方向の中心位置 CP が外側リップ部 21 と内側リップ部 22 に分岐するリップ部 19 の根元部 31 の厚み方向における中心位置 CP と一致することなく、内側リップ部 22 側に偏倚しており、内側リップ部 22 が芯金 8 によって良好に支持される構造に構成されている。